

入校者5年ぶり定員超

職能短大
運営協 志願者増へ意見交換

大館市の秋田職業能力開発
短期大学校（後藤康孝校長）

の運営を話し合う「高齢・障
害・求職者雇用支援機構運営
協議会秋田職能短大部会」は
7日、同校で開かれた。職員
が入校状況や本年度計画につ
いて報告したほか、学生募集

の方向性などについて委員と
意見交換した。

本年度初の会合に委員や同
校職員ら16人が出席した。後
藤校長は「今年の1年生は30
期生。節目の年だが、施設や
設備の老朽化も激しいため、
改修工事などで学ぶ環境を整

えたい。3年目のコロナ禍だ
が、感染症対策を徹底して、
対面での就学機会を守りつつ
学生を進路先に送り出した
い」とあいさつした。

職員の報告によると、本年
度は定員60人に対して62人が
入校。5年ぶりに定員を上回
った。一方、3学科のうち唯
一一定員割れした生産技術科の

応募者増加が課題とした。
このほか同校が取り組む就
職支援、地域貢献活動などに
ついて説明した。6月24日現
在の進学・就職状況について
は修了予定者50人の4割が進
路決定済みなどと報告した。

質疑応答では、委員から生
産技術科の応募者増加の取り
組みについて質問があった。
後藤校長は「同科には今年3
人の女性が入校した。機械分
野が身近なものであり、女性
も活躍できる職種だとPRす
ることで応募者の幅を広げた
い」と答えた。

同協議会の委員は学識経験

者、地元企業、
行政、労働団体
などの代表者8
人で構成され
る。次回の会合
は来年1月下旬
を予定してい
る。



学生募集の取り組み
について意見交換し
た協議会（秋田職能
短大）